

気温予報を用いたブドウ‘デラウェア’のジベレリン 処理適期予測の高精度化

食と農の研究部 葡萄グループ

■背景と目的

大阪特産のブドウ‘デラウェア’は、種なし化のために、植物ホルモンの一種であるジベレリンを処理する必要があります。この適期は、第二新梢（先端から2番目の新梢）の展葉数を指標にして判断しています。近年の温暖化による春先の気温上昇により、平年よりも適期が早まる年が多くなっています。

そこで、**気温と展葉との関係性を長年のデータから明らかにし、ジベレリン処理適期の予測精度の向上をめざしました。**

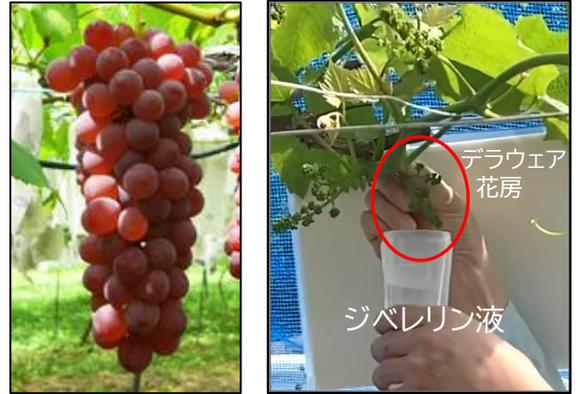


図1 デラウェアの果実とジベレリン処理の様子

■調査の方法

当所では、1987～2024年の4～5月に所内露地デラウェアほ場の展葉数を約3日ごとに測定しています。この長期データを用いて、気温と展葉数との関係性を解析しました。

その結果、デラウェアの第二新梢の葉は基準温度7.5℃とした有効積算温度100℃・日あたり4.0枚展開することがわかりました。この知見と気温予報値を活用することで、**ジベレリン処理適期の高精度化を実現しました。**

本研究の知見とメッシュ農業気象データ（農研機構）が提供している気温予報値を活用したジベレリン適期予測を当所ホームページで情報提供しています。この予測は、府内生産者の計画的な栽培管理に役立てられています。



図2 デラウェアの展葉の様子

■今後の方向性

今後、ブドウの発育と気温との関係性をより詳細に明らかにし、予測の高精度化や適用できる作型（加温栽培、無加温栽培など）の拡大をめざしていきます。

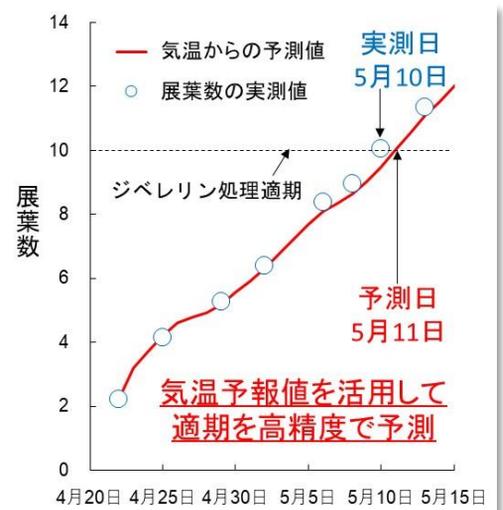


図3 2019年の‘デラウェア’の展葉数の変化